

「国際的に脅威となる感染症対策の強化のための国際連携等に関する基本戦略」の概要

基本戦略策定の背景と目的

- 基本計画は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大があったこと等から、2020年までの計画期間を2022年まで延長している。
- 今般、我が国を含む世界各国においてウィズコロナの取組が進み、2023年には我が国が議長国となるG7サミットが開催されることも踏まえ、基本方針と基本計画とを一本化し改定することにより、基本戦略を取りまとめ、関係府省庁が一体となって施策を推進していく。
- 感染症対策については、各国の国際社会の一員としての貢献が、国際社会、自国における感染症との戦いを有利にするものであるという観点から、本基本戦略には先進諸国との連携、開発途上国への国際協力等を通じて国際社会へ貢献するための施策を盛り込む。これに伴い、本基本戦略の名称を「国際的に脅威となる感染症対策の強化のための国際連携等に関する基本戦略」とする。
- 基本戦略は、「グローバルヘルス戦略」、「ワクチン開発・生産体制強化戦略」、「新型インフルエンザ等政府行動計画」、「アジア健康構想に向けた基本方針」、「アフリカ健康構想に向けた基本方針」等の関係する政府方針等とも相互に連携を図り、一体的に推進。

主な新規・強化事項等

1. グローバルヘルス・アーキテクチャーの構築を通じたPPRの強化、UHC推進への貢献等

- ・ 新たな資金メカニズム(パンデミック基金)や財務・保健連携を含む関連する新たなプラットフォームなどのグローバルヘルス・アーキテクチャー強化の動きに適切に対応
- ・ 2024年5月の第77回WHO総会において国際保健規則の改正案の採択がなされるよう、積極的に議論に参加。また、新たな国際文書の策定のための政府間交渉会議が設置され、加盟国間で交渉が開始されており、日本は副議長国として貢献
- ・ WHOの取組を活用することで有機的な国際的なネットワークを形成し、現場のニーズに対応できる国際保健人材の育成や、医療技術、医薬品等の開発の促進加速化等
- ・ UHCに関する国際会議等の取組、これらの有機的な連携を通じ、グローバルレベルでのより強靱、公平、持続可能なUHCの達成に向けた取組の効果的かつ確実な実行を促進
- ・ 国立健康危機管理研究機構を創設し、UHC実現等に向け、WHOや各国CDC等の国際機関・公衆衛生当局と連携、協力関係を構築。相手国への医師等派遣、公衆衛生対応力の向上支援、現地人材の育成などを行う
- ・ WHO任意拠出金、世界銀行等の国際機関やCEPI、世界抗結核薬基金、グローバル抗菌薬研究開発パートナーシップ拠出金、GHIT等の官民連携基金等に対する適切な拠出を通じた国際連携強化
- ・ 医薬品への公平なアクセス確保のための国際的な枠組みにおける議論に参加 等

2. 感染症等対応人材の充実、人的支援による国際貢献等

- ・ 国立感染症研究所の実地疫学専門家養成コースの研修内容の高度化等を実施
- ・ 国際緊急援助隊・感染症対策チームの派遣体制の整備、活動支援 等

3. 感染症に関する検査、情報収集・分析、研究等の推進

- ・ 国立健康危機管理研究機構において、国内外の多施設共同治験等のネットワーク構築の推進、国内外で活躍できる人材養成等
- ・ AMEDに先進的研究開発戦略センター(SCARDA)を設置し、世界トップレベル研究開発拠点の形成や戦略的なワクチン開発を長期的に支援
- ・ 長崎大学に建設が完了したBSL4施設について、安全・安定的な管理運営に向け必要な支援を行う 等

「国際的に脅威となる感染症対策の強化のための国際連携等に関する基本戦略」の概要

主な新規・強化事項等

4. ワンヘルス・アプローチの推進

- 輸入動物を介した感染症の侵入防止対策や、渡り鳥等の越境等により発生する可能性のある感染症（鳥インフルエンザ等）への早期対応
- 人獣共通感染症病原体のゲノム性状の解析、薬剤耐性菌の実態解明に向けた研究等において、関係機関による分野横断的な連携を推進
- 連携シンポジウム等の開催による関係機関間での協力体制の強化
- 自治体とも緊密に連携を図り、ワンヘルスの一層推進。自治体において、部局を超えて防疫体制を構築するなど、自治体内での部局間の緊密な連携を図る 等

5. 薬剤耐性（AMR）対策の推進

- 抗菌薬開発に対する新たな市場インセンティブの導入を含めた、薬剤耐性（AMR）対策に資する研究開発を推進し、薬剤耐性（AMR）に関する国際的な政策の推進を主導
- WHOのAMRに対する取組の支援、G7プロセスにおける薬剤耐性（AMR）の取組の更なる推進。国際連合食糧農業機関（FAO）、国際獣疫事務局（OIE）及び国際連合環境計画（UNEP）、並びに世界抗結核薬基金（ストップ結核パートナーシップ）、グローバル抗菌薬研究開発パートナーシップ（GARDP）及びパンデミック基金等の国際的イニシアティブによる薬剤耐性（AMR）に対する取組への支援又は貢献を行うことで、先進国間における国際連携を強化するとともに、国際的な議論を主導 等